

# 乳癌の発症リスク

よく言われているのは

- 早い初潮
- 遅い閉経
- 出産の経験なし
- 授乳経験なし

# 乳癌の発症リスク

- アルコール  
閉経前

可能性あり

閉経後

確実



飲酒量が増えるほどリスクは増大する



# 乳癌の発症リスク

- 喫煙

ほぼ確実



受動喫煙においてもリスクが増大する可能性あり



# 乳癌の発症リスク

- 肥満

閉経前

可能性あり

閉経後

确实





# 乳癌の発症リスク

- 糖尿病

ほぼ確実

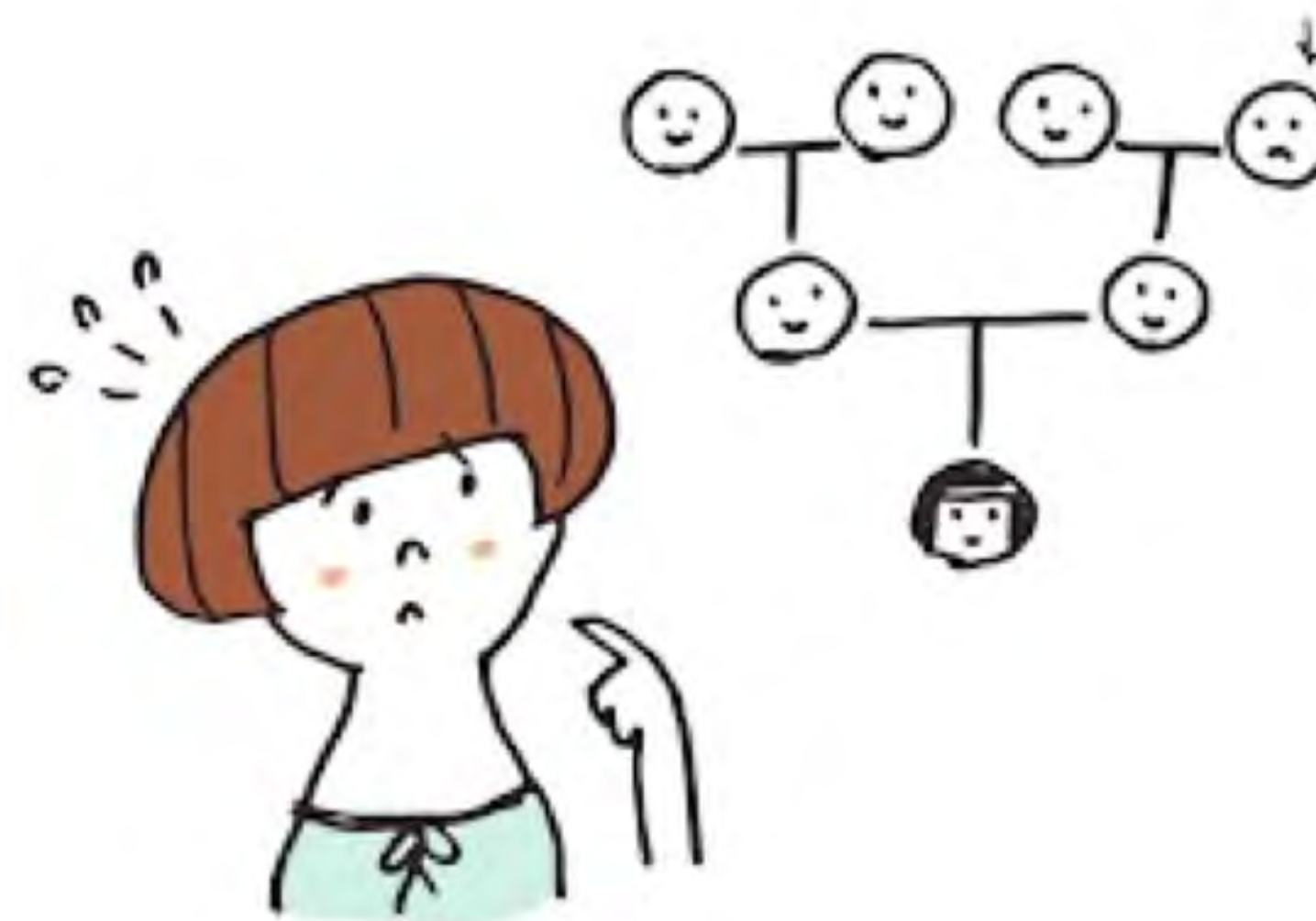


閉経後女性では適度な運動によってリスクを減少



# 乳癌の発症リスク

- 家族歴



确实

母、姉妹、娘に乳癌患者がいれば、リスクは**2倍**に！



# 対策型検診と任意型検診

	対策型検診(住民検診)	任意型検診(人間ドックなど)
目的	住民全体の死亡リスクを下げる	個人の死亡リスクを下げる
概要	公共的な医療サービス	医療機関などが任意で提供する医療サービス
検診対象者	定められた年齢の住民	検診を希望する者
検診費用	税金などにより自己負担は一部	全額自己負担
利益と不利益	住民全体にとっての利益が不利益を上回ること判断する	個人のレベルで判断する



## 「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」

### 指針で定めるがん検診の内容

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し実施可	2年に1回 ※当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	質問(問診)、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ) ※視診、触診は推奨しない	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回





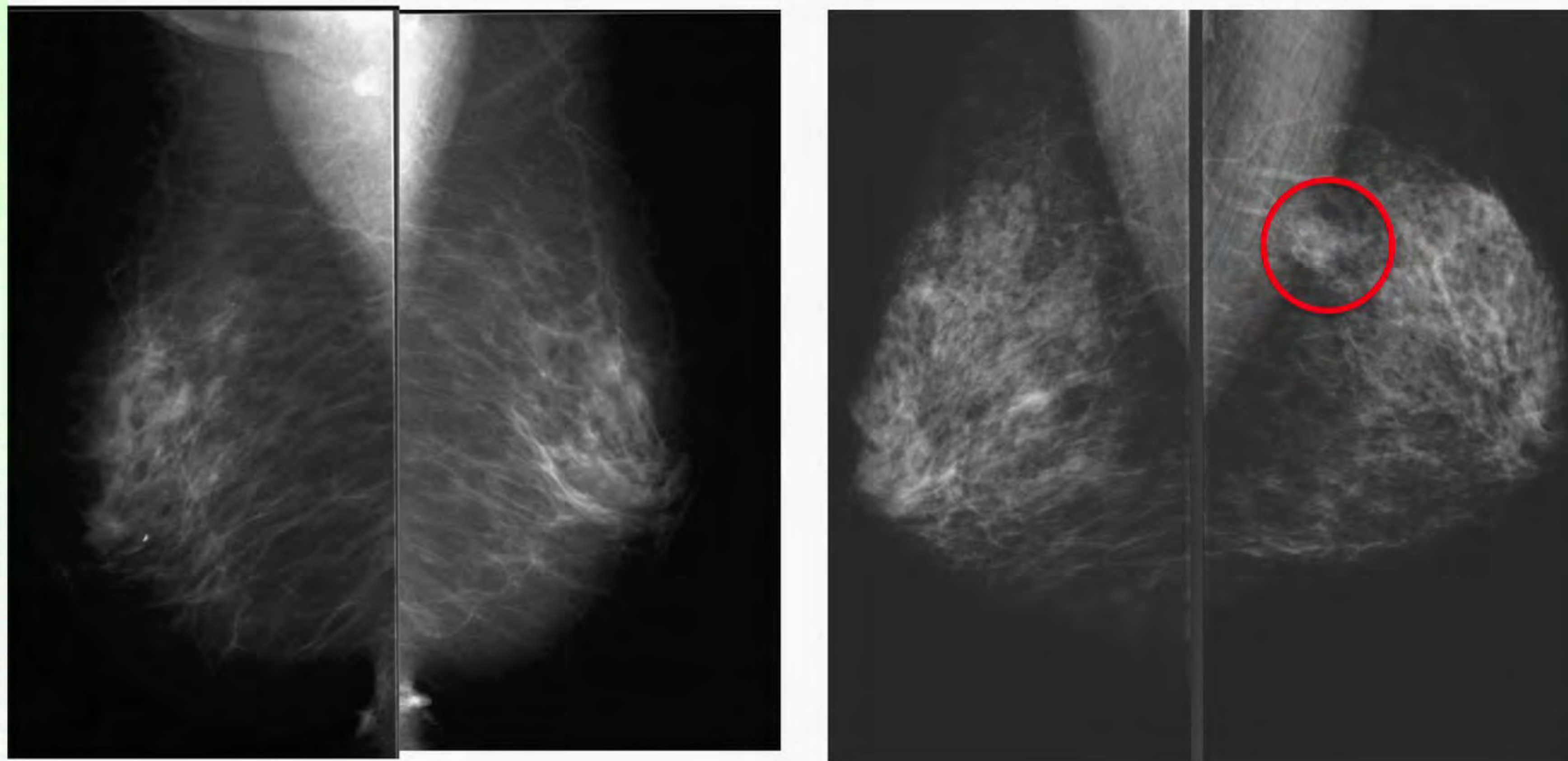


# マンモグラフィ検査





# マンモグラフィ



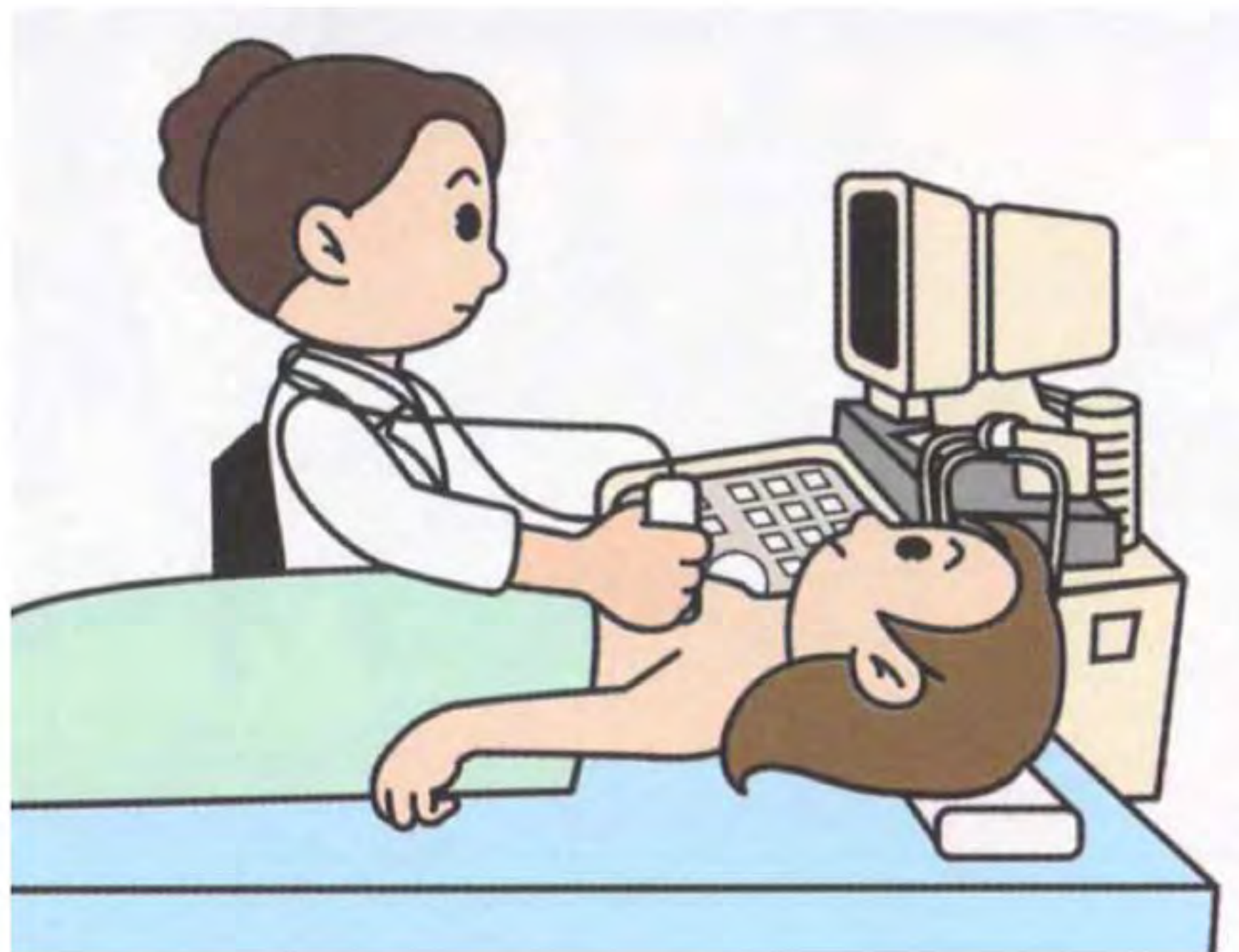
異常なし

乳がん



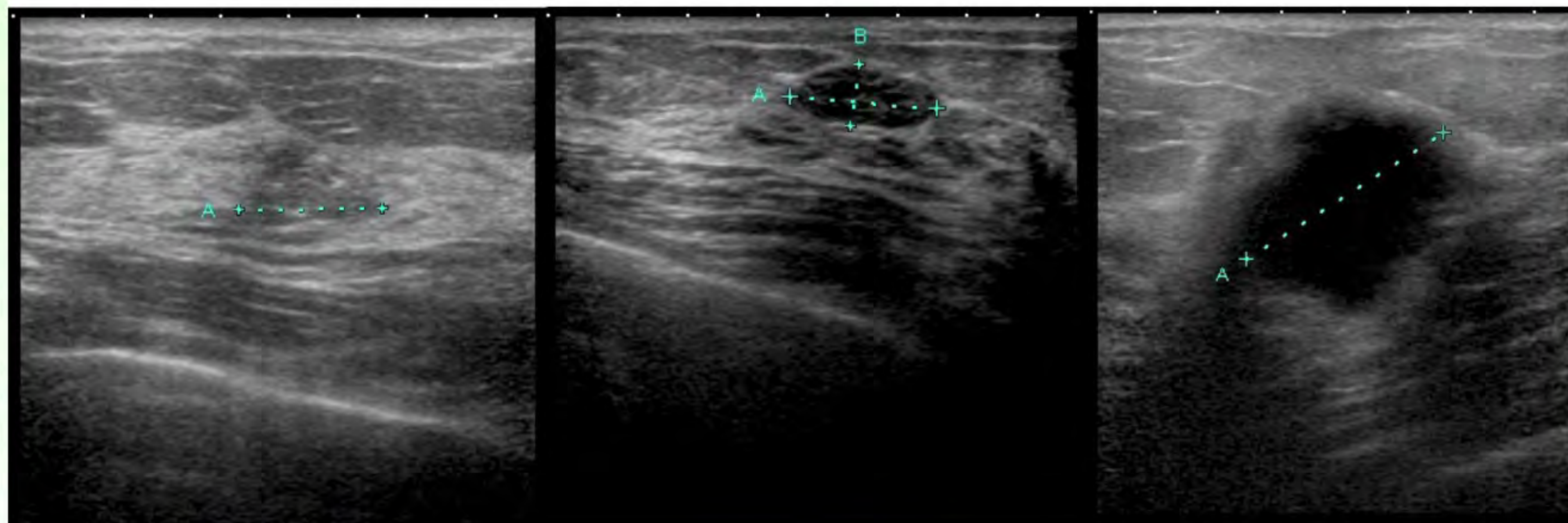


# 超音波検査（エコー検査）





# 超音波



乳腺症  
(良性)

線維腺腫  
(良性)

乳がん

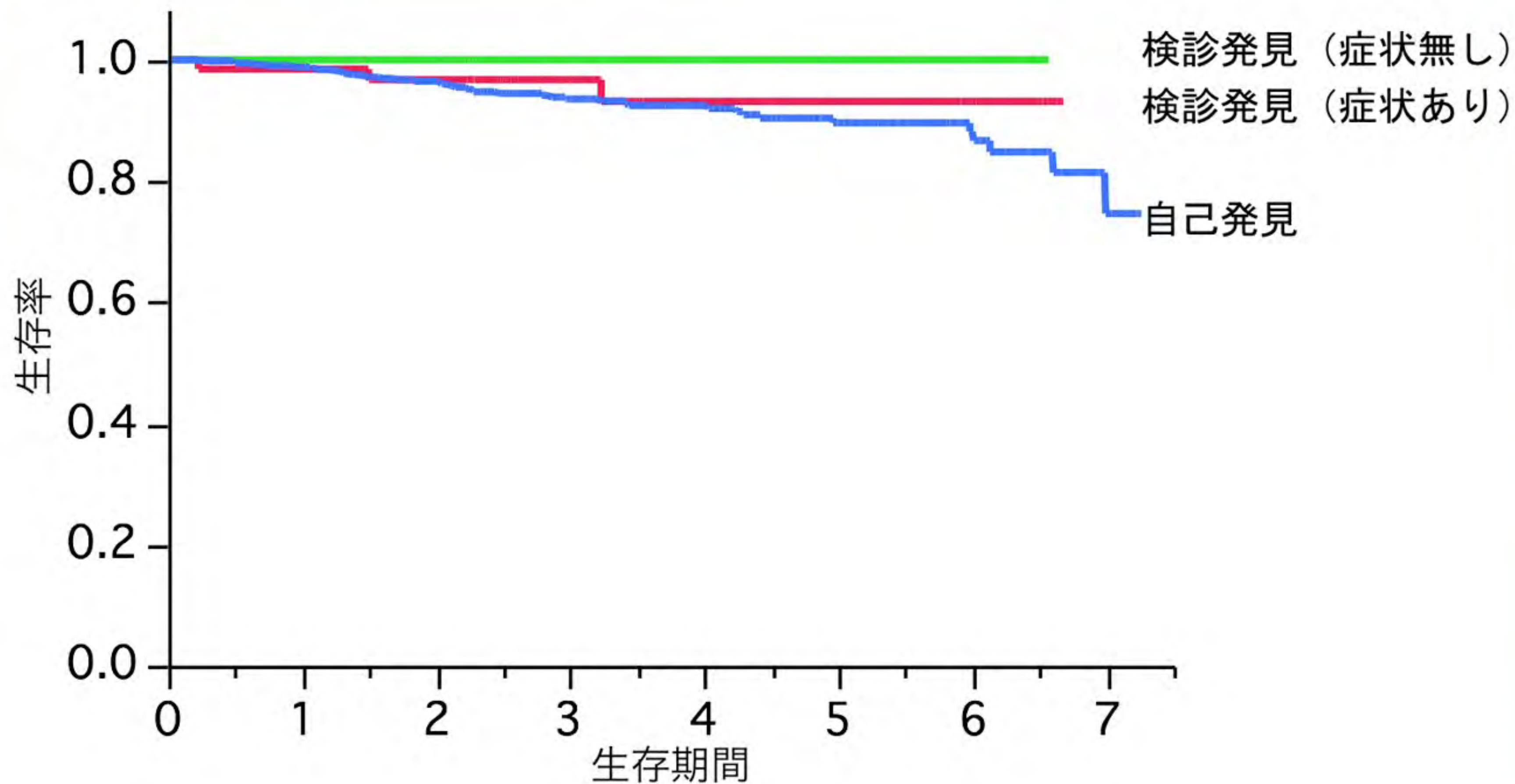




	マンモグラフィ	超音波(エコー)検査
○長所	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 手に触れないしこりや石灰化の発見が得意</li> <li>◆ 乳房全体を1枚のフィルムで写すので隅々まで観察できる</li> <li>◆ 閉経後など、乳腺の密度が低い柔らかい乳房に特に有効</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高濃度乳房でもしこりの発見ができる</li> <li>◆ しこりの内部まで見えるので、しこりの種類がある程度分かる</li> <li>◆ 圧迫したり針を刺したりせず、放射線も使わないので、体への負担が軽い</li> <li>◆ 気になる個所を部分的にじっくり観察できる</li> </ul>
×短所	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高濃度乳房は、全体が白っぽく写り、病変を発見しにくいことも</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 石灰化の発見は難しい</li> <li>◆ 検査を行う人の技術により、発見率に差がしやすい</li> </ul>



# 発見状況別の生存率





乳腺専門医がいる病院を探し、紹介状を書いてもらう

乳腺外科の受診；視触診、マンモグラフィ、超音波検査

病変無し

病変あり

良性疑い

悪性疑い

細胞診

針生検

2年後の乳癌検診へ

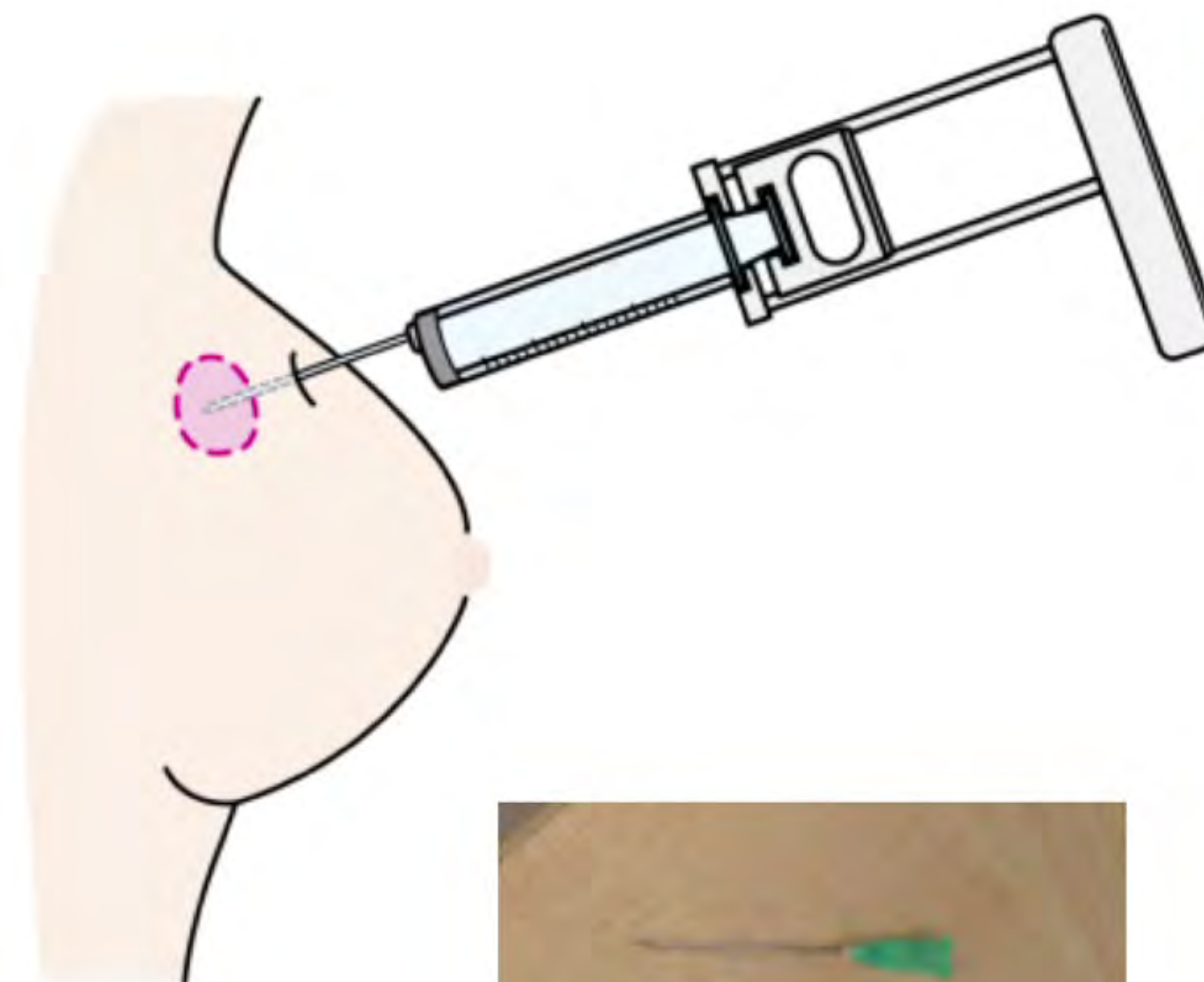




# 細胞診

## 特徴

- 針が細いので麻酔は不要
- 刺した部分に血腫（血の塊）ができることがある
- 患者さんのからだへの負担が少ない
- 診断を確定するのが難しいことがある

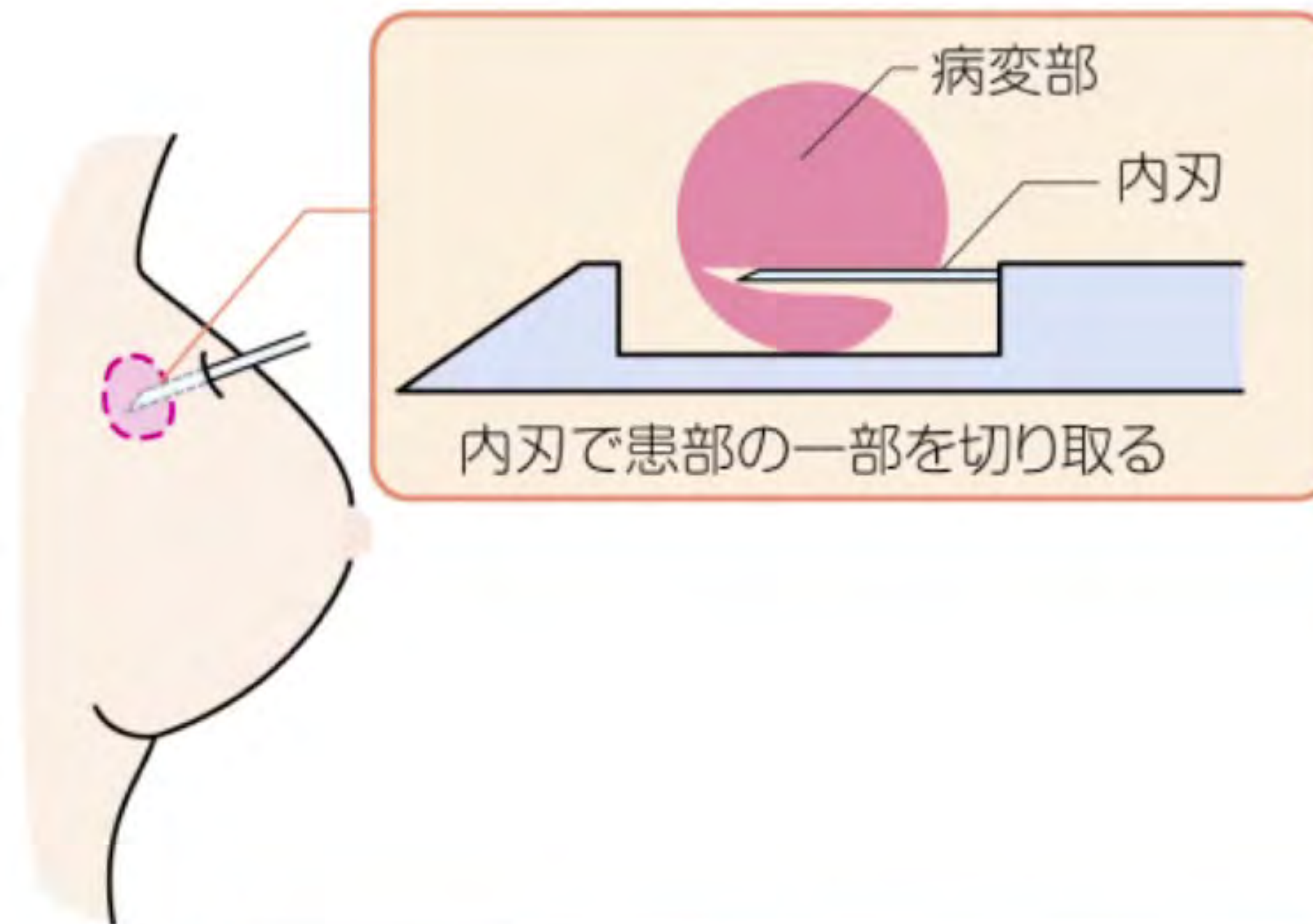




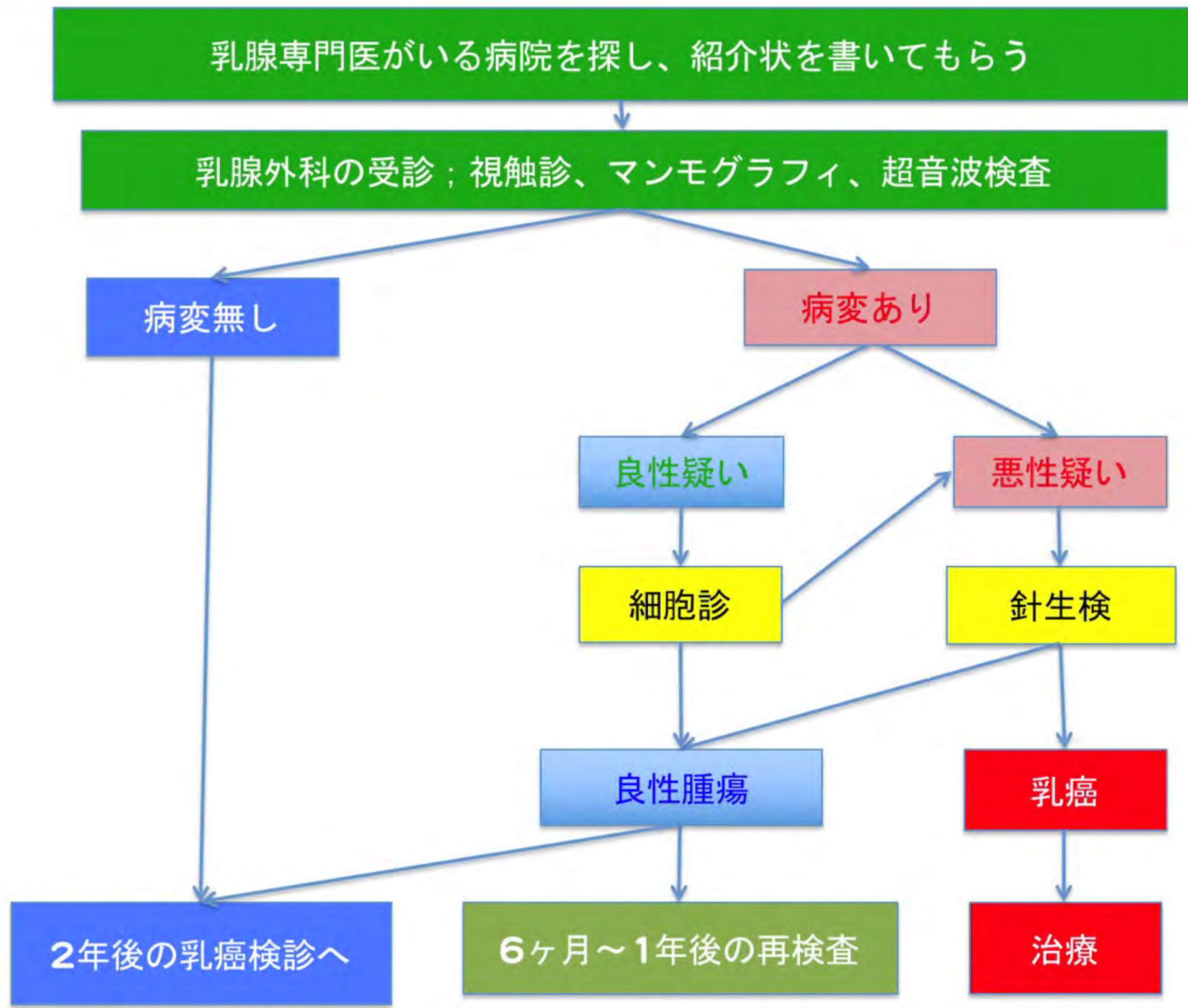
# 針生検

## 特徴

- 局所麻酔が必要
- 刺した部分に血腫（血の塊）ができることがある
- 患者さんのからだへの負担は、穿刺吸引細胞診に比較するとやや多い
- 入院の必要はない
- 穿刺吸引細胞診に比べて、より正確な診断が可能









## まとめ

- ✓ **30～40**歳代の乳がんは増えているが、**60**歳以上の高齢者でも決して少なくない。
- ✓ 乳がんにならないためにお酒やタバコは控えめに。閉経後の体重増加も要注意！
- ✓ 症状のない時期に検診で発見できれば完治する可能性が大！
- ✓ たとえ要精査と出ても慌てず騒がず専門機関に受診しましょう。